

## 学校づくり・人づくりを確実にする学校評価の工夫 ～ 「学校評価」をより効果的に人材育成に活かすために ～

東京都八王子市立遣水小学校 石倉 富男

### I 現状と課題

#### 1 現状認識

本市では、平成27年の学校教育法等の改正を受け策定された「八王子市立学校における学校評価の実施指針（改訂版）」に基づき、学校評価が実施されている。

また、今年度より市内70校全ての小学校が地域運営学校となっている。現在、各校は指針を基に、保護者、地域と協働体制を構築し、学校評価を学校づくりや人づくり、カリキュラム・マネジメントに活かせるよう取り組んでいる。

##### (1) 学校づくり(学校経営計画改善)への活用

各校独自の項目(自由意見含む)を加え、複数教職員が作成等に携わることで教職員の意識を向上させ、学校経営計画策定、教育活動の改善に反映させている。

##### (2) 人づくり(人材育成)への活用

評価結果を担当者にフィードバックし、エビデンスに基づいた改善につなげている。

#### 2 課題分析・アプローチの視点

平成30年8月に実施したアンケート調査結果には、外部アンケート等の回収率を高めるため工夫は各校でなされているが、集計方法は「手作業」が約74%と最多であった。

また、「学校評価の学校づくりへの活用」について「役立てられている」との回答が約61%だったのに対し、「人づくりへの活用」の「役立てられている」との回答は、その半分以下の約27%であった。

これらの結果を受け、「効率化」と「人材育成」に視点を絞って、学校評価のより効果的な活用方法を追求することとした。

### II 取組事例

#### 1 A校の実践

学校経営計画を自己申告の様式で示されている、「学習指導」、「生活指導・進路指導」、「学校運営」、「特別活動」の項目で記載し、重点目標には数値目標を設定している。

本校では、授業力向上が第一の課題であるため、「『児童が学習が分かりやすい』の項目を9割にするように授業の在り方を工夫します。」と学校経営計画に示し、「授業のめあての掲示」、「めあて達成のための方策の掲示」、「めあての振り返り」など授業に関しては8つの設問を設定し、7月と12月に学校評価アンケートを実施している。

評価結果はクラス毎に集計し、保護者や児童の評価結果、教員の自己評価結果、授業観察結果等の資料を基に各教員と学期ごとに面接を行い、自己評価と児童や保護者の評価結果の差が10%以上ある項目に関しては、職層に応じた役割を自覚させ指導方法の工夫・改善に努めている。このことにより教員は、自己申告の成果と課題に具体性が出され学校経営計画をより意識できるよう変容してきている。

#### 2 B校の実践

本校では、学校HPのWeb上で、年間2回(7・12月)の保護者と児童の学校評価アンケートを実施している。

さらに学校公開・授業参観時に、年間2回(6・12月)の保護者による授業評価を紙ベースで実施している。

そして、学校評価アンケートはクラスごとに、授業評価は学年ごとに集計結果をまとめ、自己申告書の目標値の設定、学年経営案、そして面談資料として活用している。

例えば、若手教員に多い例として、保護者の学校評価項目「落ち着いて学習できる雰囲気である」に否定的な数値が10%を超えていた場合等、自由記述との関連も確認し、具体的な改善策を立て取り組ませていく。

また、どのステージの教員でも児童の学校評価項目「いじめへの対応」「分かりやすい授業」に対する否定的な数値は、児童名が特定できるため、個別対応、組織的対応、そして授業改善等、面接を通して解決のための具体的目標設定と計画が立てられる。

さらに初任1校目の若手が50%を占める本校では、授業評価を学年ごとに集計し、学年経営案(中間・最終報告)の具体的数値目標等設定のために活用している。OJT担当者である主任教諭層にとっては、若手育成のためのデータとしても有効に活用されている。

年間2回(7・12月)の学校評価と授業評価を実施し、中間申告時での目標の追加設定と最終申告時の教員の自己評価で成果と課題を考察する資料としても大いに役立っている。

### III 成果と課題

#### 1 成果

- ・人事考課と連動した学校評価の取組をとおして、教職員の学校経営参画意識を高めることができた。
- ・児童アンケート結果を効果的に活用することで、授業力向上にもつながった。

#### 2 課題

- ・保護者、地域アンケートの回収率の向上及び、集計業務の効率化。
- ・評価結果を活かした自己申告面接の在り方。

### IV 提言

「学校評価」をより効果的に人材育成に活かすために、以下の2点を提言する。

- ・人事考課との一体化【外部アンケート→結果を踏まえた自己評価→自己申告(中間・最終)・面接→実践、を年間2サイクル以上確実に実施】
- ・ICT(Web上での回答・集計)及びスクールサポートスタッフ(SSS)を活用した集計作業等の効率化。